

# 東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会の開催

防災課

## 1 目的

東日本大震災における消防団活動を検証し、今後の大規模災害時における消防団活動のあり方及び団員の安全確保策並びに平常時における住民の防災意識向上のための啓発のあり方等を検討し、地域コミュニティの核としての消防団の充実強化を図るため、「東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会（以下「検討会」という。）」を発足し、平成23年11月25日（金）に第1回検討会を開催しました。

配布資料は、消防庁HP ([http://www.fdma.go.jp/disaster/syobodan\\_katudo\\_kento/index.html](http://www.fdma.go.jp/disaster/syobodan_katudo_kento/index.html)) をご参照ください。

## 2 検討事項

- 大規模災害時における消防団活動のあり方について
- 消防団員の安全確保について
- 活動時の情報伝達について
- 地域住民の防災意識向上のための啓発について
- 消防団員の装備、教育・訓練について
- 消防団員の処遇改善・確保策の推進について
- その他必要な事項について（消防団の広域応援など）

## 3 スケジュール

平成23年11月25日（金） 第1回検討会  
 平成24年3月頃 中間報告  
 夏頃 最終報告

### 東日本大震災を踏まえた大規模災害時における消防団活動のあり方等に関する検討会委員名簿 （五十音順、敬称略）

(座長)	室崎 益輝	関西学院大学総合政策学部教授
(委員)	秋本 敏文	財団法人日本消防協会理事長
	小川 和久	特定非営利活動法人・国際変動研究所理事長
	榊井 正喜	全国消防長会警防防災委員会委員長 (北九州市消防局長)
	越村 俊一	東北大学大学院工学研究科准教授
	重川 希志依	富士常葉大学大学院環境防災研究科教授
	高梨 成子	株式会社防災&情報研究所代表
	武山 文英	宮城県気仙沼市消防団長
	田中 淳	東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター長・教授
	田村 圭子	新潟大学危機管理室/災害・復興科学研究所教授
	野田 徹	国土交通省水管理・国土保全局防災課長
	古木 哲夫	山口県和木町長
	松尾 一郎	特定非営利活動法人・環境防災政策研究機構理事
	宮村 忠	関東学院大学名誉教授
	森部 慎之助	高知県危機管理部長
	山口 英樹	消防庁国民保護・防災部防災課長
	山崎 登	NHK解説副委員長
	山本 正徳	岩手県宮古市長

## 4 検討会配布資料（資料7抜粋）

### 調査概要

1. 調査対象 宮古市、釜石市、気仙沼市、石巻市及びいわき市の5市のうち、沿岸を担当した以下の分団に所属する団員を調査対象とした。  
※あくまでも対象が100人程度になるように各市に依頼したものであり、その市の沿岸を担当したすべての団員に調査したものではない。

県名	市町村名	配付数	回収数	回収率	分団名
岩手県	宮古市	105	76	72.4%	第6分団、第7分団、第25分団、第29分団、第30分団
	釜石市	150	101	67.3%	第1分団、第3分団、第8分団
宮城県	気仙沼市	97	78	80.4%	第1分団、第2分団
	石巻市	120	103	85.8%	第2分団、第7分団、第11分団
福島県	いわき市	120	113	94.2%	第2支団第1分団
合計		592	471	79.6%	

2. 調査期間 平成23年10月3日（月）～11月11日（金）

3. 調査項目
- |  |  |   |
|--|--|---|
| (1) 団員の属性<br>年齢構成、職業、経験年数、階級   | (3) 情報把握<br>ア 地震の大きさ(震度)の把握状況<br>イ 大津波警報発令情報の把握状況<br>ウ 津波到達予想時刻の把握状況<br>エ 津波の高さ情報の把握状況 | オ 津波災害対策として必要だと感じたこと<br>カ 防災状況の把握状況   |
| (2) 東日本大震災時の対応<br>ア 地震直後の参集状況<br>イ 消防団の地震直後の活動<br>ウ 水門閉鎖活動<br>エ 避難誘導活動<br>オ 災害時要援護者への支援・把握状況<br>カ 初動時における活動人員<br>キ 団員の退避行動 | (4) 安全管理<br>ア 地震発生1週間の消防団活動<br>イ 活動中の危険の有無<br>ウ 今回の震災対応で特に有効であった資機材<br>エ 配備の必要性を感じた資機材 | (5) 大震災を想定した日頃の訓練、研修等<br>ア 津波防災関係の教育・訓練(その1、その2)<br>イ 惨事ストレス<br>ウ 団員の処遇と今後の活動<br>エ 消防団に入団したきっかけ |

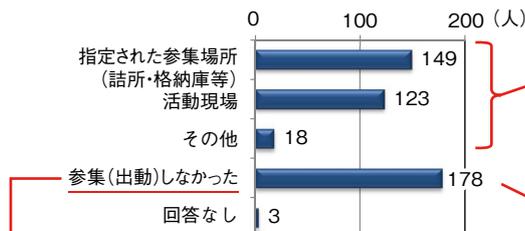
4. 調査手法 質問票を用いた無記名回答によるアンケート調査

## 地震直後の参集状況

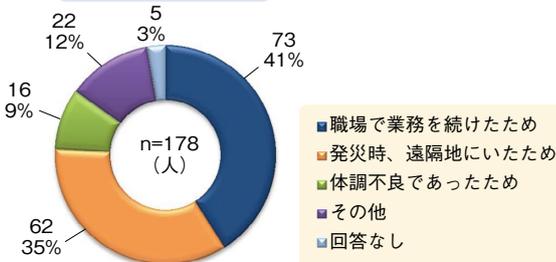
### ■ すべての団員が地震直後に参集できるわけではない

地震発生直後、消防団活動を行うため「指定された参集場所（詰所・格納庫等）」に約3割の団員が参集、「活動現場」に直接向かった団員と合わせて約6割が震災直後に参集。  
その一方、約4割の団員は、職場での業務や遠隔地にいた等の理由により、参集できなかった。

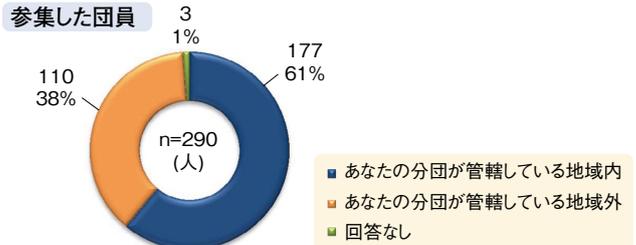
Q あなたは地震発生直後、消防団活動するためにどこに向きましたか？ (n=471)



#### 参集しなかった理由



Q 3月11日14時46分に地震が発生した時、あなたはどこにいましたか？



#### 参集できなかった団員

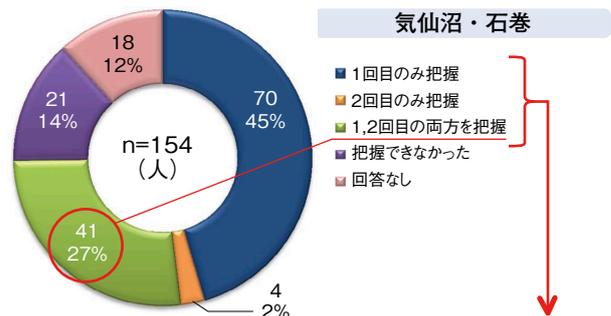
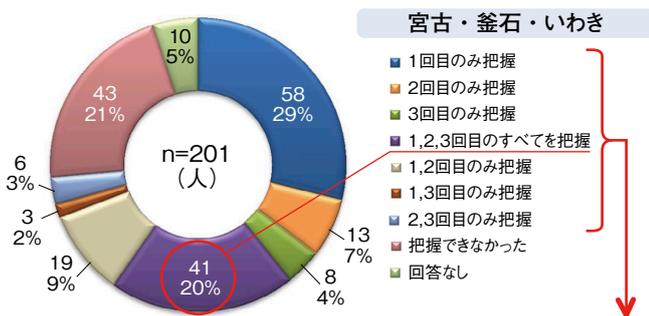


## 津波の高さ情報の把握状況

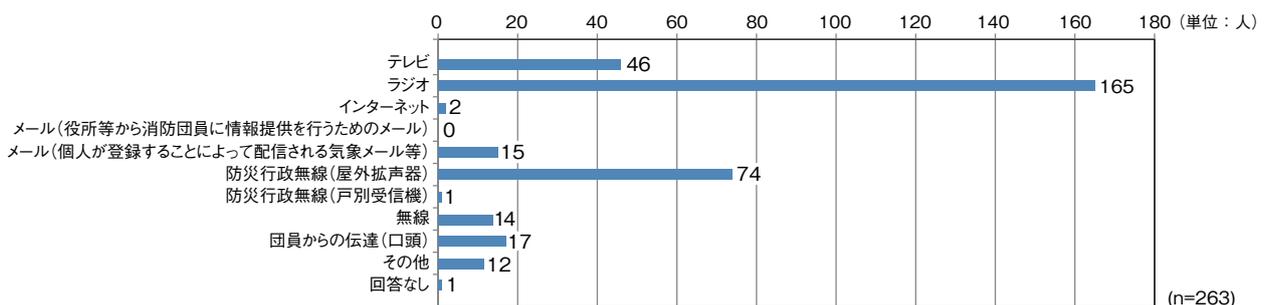
### ■ 大津波警報の発令情報を把握した団員のうち、すべての高さ情報を把握できた団員は少数

大津波警報の発令情報を把握した団員 (355人) のうち、高さ情報をすべて把握できた団員は、岩手県 (宮古市・釜石市)・福島県 (いわき市) で2割、宮城県 (気仙沼市、石巻市) で3割弱であった。情報の入手方法は、ラジオが最も多く、防災行政無線 (屋外拡声器) がそれに次ぐ。

Q あなたは大津波警報の更新情報 (岩手県・福島県：3回、宮城県：2回) を把握できましたか？



Q 津波の高さ情報をどこから入手しましたか？ (複数回答) (n=263)



詳細は、[http://www.fdma.go.jp/disaster/syobodan\\_katudo\\_kento/01/shiryo\\_07.pdf](http://www.fdma.go.jp/disaster/syobodan_katudo_kento/01/shiryo_07.pdf) をご参照ください。